

平成 29 年度 第 1 回卒論中間発表会およびレポート執筆に向けて

1. 第 1 回卒論中間発表会

- ・対象者： 平成 29 年度（平成 30 年 3 月）に卒業予定の学生（現 3 回生以上）
 - ・日程： **2016 年 12 月 8 日（木）・9 日（金）（予定）**
 - ・発表時間： 30 分（発表 10-15 分、質疑応答 15-20 分）
 - ・場所： 芸術研究棟芸 3 講義室（1 日目）／法経研究棟 4 階大会議室（2 日目）
- * 発表会全体への参加は義務であり、授業以外の理由による欠席は認められない。特別な事情で、発表日時調整が必要な場合はすぐに申し出ること。

《卒論中間発表会にむけての準備・提出物》

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| (1) 発表題目の提出期限（発表会 2 週間前） | 2016 年 11 月 25 日（金）17:00 まで。 |
| (2) 報告レポートの提出期限（発表会 1 週間前） | 2016 年 12 月 2 日（金）17:00 まで。 |

※締切厳守で！！

《今後のスケジュール》

- | | | |
|---------|---------------|--------------|
| 平成 29 年 | 5 月中旬～6 月上旬 | 第 2 回卒論中間発表会 |
| | 10 月下旬～11 月上旬 | 卒業論文題目提出期間 |
| | 10 月下旬～11 月上旬 | 第 3 回卒論中間発表会 |
| 平成 30 年 | 1 月初旬 | 卒業論文提出期間 |
| | 1 月下旬～2 月上旬 | 卒業論文口頭試問 |

2. レポート、レジユメの体裁

《レポート》

- ・分量 3,000 - 4,000 字程度（400 字詰め原稿用紙換算で 8 枚程度、多くても 10 枚程度）。
- ・体裁 A4 サイズ・横書き・1 頁あたり 40 字×25 行を目安にしてください。

* 作成・提出にあたっての注意事項

- (1) 表紙、発表要旨、参考文献一覧の順番に並べ、最終頁まで頁番号をつけること。
- (2) 表紙に発表題目、名前、所属、学年、学籍番号を明記すること。
- (3) 参考文献一覧には、参考文献と予定参考文献とをそれぞれ分類して書くこと。
またそのさいには、日本語文献と外国語文献とを分けて書いてください。
- (4) レポートは手書きでなく、パソコンで作成し、**各自 6部**を用意したうえで左上をホチキスで留め、提出すること（コピーは公費）。

《レジュメ》

卒論中間発表会で配布するレジュメは、以下の点に留意して作成してください。

- (1) 着想の経緯：①問題関心・研究対象、②時代背景、③研究史（先行研究の紹介）
- (2) 研究計画：④入手・閲覧可能な史料、外国語文献の見通しなど
- (3) 参考文献一覧

* **各自 40部**ずつ用意してください（コピーは公費）。

* 必ず発表会開始前にコピーを終えておくこと。

3. 参考文献の表記法について

《日本語文献》

- ・ 著者名、論題、編著者名、書名、出版社、出版年、頁。
- ・ 論題には「……………」、書名には『……………』を使用する。

(単行本／単行本所収論文)

- (1) 秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序——ヘゲモニー国家から帝國的な構造的権力へ——』名古屋大学出版会、2003年。
- (2) リンダ・コリー（川北稔監訳）『イギリス国民の誕生』名古屋大学出版会、2000年。

* 翻訳の場合は、(2)のように著者名の後ろに訳者名を括弧でくくって表記。

* 出版社と出版年を括弧でくくって表記する場合もある。

例) 秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序——ヘゲモニー国家から帝國的な構造的権力へ——』（名古屋大学出版会、2003年）。

(論文)

- (1) 藤川隆男「オーストラリアにおける歴史博物館の発達とポストモダニティ」『西洋史学』249号（2013年）、1-19頁。
- (2) 竹中亨「ジーメンス社の対日事業」工藤章・田島信雄編『日独関係史 1890-1945 I——総説／東アジアにおける邂逅——』東京大学出版会、2008年、221-264頁。

《外国語文献》

- ・書名はイタリックで表記すること。
- ・論文のタイトルには ‘ ’ をつける。またフランス語文献やドイツ語文献ではそれぞれ異なった表記法、《 》や„ ” がある。

(単行本)

- (1) Holger Hoock, *Empires of the Imagination: Politics, War, and the Arts in the British World, 1750-1850*, London, 2010.
- (2) Cannadine, David (ed.), *Empire, the Sea, and Global History: Britain's Maritime World, c.1763-c.1840* (Basingstoke, 2007).

- * (2) のように、著者・編者の姓と名を逆転して表記することもある。
また、出版地・出版年を括弧でくくって表記することもある。

*** 表記法は文献リストのなかで必ず統一すること。**

(論文)

- (1) Bob Harris, ‘American Idols’: Empire, War and the Middling Ranks in Mid-Eighteenth-Century Britain’, *Past & Present*, 150 (1996), pp. 111-141.
- (2) Colley, Linda, ‘Britishness and Otherness: An Argument’, *Journal of British Studies*, xxxi (1992), pp. 309-329.
- (3) Patrick O’Brien, ‘Inseparable Connections: Trade, Economy, Fiscal State, and the Expansion of Empire, 1688-1815’, in P.J. Marshall (ed.), *The Oxford History of the British Empire II: The Eighteenth Century* (Oxford, 1998), pp. 53-77.

* (1)、(2) の網掛け部分は、イギリス式とアメリカ式の違い。

* (3) は論文集に収められている場合の表記の仕方。

* 学術雑誌の巻数は、アラビア数字で 15 でもローマ数字で xv、XV と表記してもよい。

4. 文献調査の方法

- ・参考文献や註をいもづる式に探すのが効率的。
- ・外国語文献の調査方法や入手方法は、その分野を専攻している教員や院生に尋ねること。
- ・OPAC や CiNii など、インターネットを利用すればかなりの情報収集が可能（詳しくは資料

を参照)。ただし集まった情報の内容や質はかなり玉石混淆になるため、十分な注意が必要。

- ・西洋史学研究室の HP には、大阪大学で利用可能な電子ジャーナルのリストが掲載されているので参考に。

5. さいごに……

わからないことは先生方や先輩に聞けば教えてくれるので、遠慮せずに研究室にどんどん来て、先生方や先輩たちと話をし、質問してみるといいです。研究を進める上で人と議論することは非常に大切です。

《その際の注意事項》

- (1) 教員に相談を希望する場合は「オフィス・アワー」を利用するか、事前にアポイントをとってください。院生も自分たちの勉強時間をさいて協力してくれているということを忘れずに。勉強の途中であれば、「今、いいですか？」と尋ねる心遣いをしてください。
- (2) 教員や院生に相談する場合は、最低限の準備や勉強をしてから臨んでください。「ネタをください」、「どうすればいいですか」など、丸投げは禁物です。頑張って勉強してください。

〈参考資料 1〉

I. 文献調査と入手について

1. 日本語文献

- (1) 単行本：OPAC や CiNii Books 等を利用して図書館などで探す。
- (2) 学術雑誌論文：『史学雑誌』の「回顧と展望」、『日本歴史学界の回顧と展望』、『西洋史学』の目録などを利用する。また、Magazine Plus や CiNii Articles のようなオンライン・データベースを検索するのも有効。

2. 外国語文献

・単行本・学術雑誌論文全般：阪大図書館 HP の**ディスカバリーサービス**から、単行本と論文の検索ができる。阪大に所蔵している、あるいは阪大内から閲覧可能な文献の情報も得られる。

・学術雑誌論文：阪大図書館の**電子リソースリスト**から、阪大内から閲覧可能なオンライン・ジャーナルなどを検索することができる。学生であれば館外からも Web サービスにログインすることで利用可能。

URL= <http://sfx.usaco.co.jp/osaka/az>

・イギリス史・イギリス帝国史の文献検索では、**Bibliography of British and Irish History** が網羅的なデータベースとして活用可能。学内限定ながら阪大図書館のデータベースからアクセス (URL= <http://apps.brepolis.net/bbih/search.cfm?>)。

また、英国図書館 (British Library) のカタログや COPAC を使って文献を探す方法もある。

Explore the British Library:

URL=

http://explore.bl.uk/primo_library/libweb/action/search.do?dscent=1&dstmp=1446439871004&vid=BLVU1&fromLogin=true

COPAC: URL= <http://copac.jisc.ac.uk/>

・アメリカ史の文献については、*Journal of American History* や、*American Historical Journal* のウェブサイト (阪大内から利用可) から索引を検索するのがお薦め。

・ドイツ語の論文については、*Historische Bibliographie* からドイツ史の各種論文について調べ

ることができる。また、*Historische Zeitschrift* 掲載の論文は、同雑誌の Register で検索可能。Register は 5 年に一度刊行される。オンラインでは以下のウェブページから最新号とバックナンバーの目次が見られる。

URL= <http://www.degruyter.com/view/j/hzhz>

- ・ フランス語の文献 にかんしては、日本の CiNii に相当するもので、未公刊の博士論文に関しても要約をすることができる。URL= <http://www.sudoc.abes.fr/>
また BNF（フランス国立図書館）では、最近、主要な一次資料のデジタル化が進み、ネットで一部の本や新聞雑誌記事を読むことが可能らしい。URL= <http://www.bnf.fr/>
- ・ 各雑誌の「書評」や Book Reviews のコーナーで最近の研究書を確認する方法もある。

* 外国語雑誌が研究室や学内の他の部局になく、かつオンライン・ジャーナルを利用できない場合は、図書館の参考調査カウンター（日本で所蔵されているかどうかは、CiNii もしくは『学術雑誌総合目録』）で調べてみることに。

3. 文献の入手方法

阪大が所蔵していない文献の場合、他の大学の図書館にあるかどうかを調べる。あれば、図書館 2 階にある参考調査カウンターや Web サービスを通じて貸出、もしくは複写を依頼する。貸出・複写いずれも不可の場合、参考調査カウンターで手続きの上、直接訪問して閲覧する。

II. 論文とは？

（鈴木雄雅『大学生の常識』（新潮社、2001 年）より）

1. 論文

- ① 論点や問題点の提起がなされ、自己の創意から出た仮説を事実によって論述し結論を引き出すもの。
- ② 一定の形式を備え、かなりの分量を有し、各方面からの批判を加味して書き上げられたもの
* 阪大西洋史学の卒論は 400 字詰め原稿用紙換算で 50 枚程度（註、参考文献、巻末資料を除いた本文のみの分量で）。
- ③ 学術論文とは、自分の研究の結果を論理的な形で表現したもの。

2. 研究論文の資格のないもの

- ① 一冊の書物や一篇の論文を要約したものは、研究論文ではない。

- ②他人の説を無批判に繰り返したものは、研究論文ではない。
- ③引用を並べただけでは研究論文ではない。
- ④他人の業績を無断で使ったものは、“剽窃”であって、研究論文ではない。

3. テーマの見つけ方

- (1) 興味の対象を明確にする。
- (2) 問題点を探す。
 - ①通説の誤りを見いだす。
 - ②通説で欠けているところを見いだす。
 - ③通説に何かを付加する。
 - ④新しい解釈をする。
- (3) 焦点を絞る。課題から本題へ。教員にぶつかろう（物理的にではない）。

4. 自分の扱う論文のトピックを確定する前に

- (1) このトピックの研究に必要な材料があるか。
- (2) 自分の力で扱いきれるか。
- (3) 新しい研究トピックであるか。
- (4) 自分はこのトピックに興味関心を持っているか。
- (5) 意義のある研究トピックか。

5. テーマは細かくしぼること

自分がその研究のために、情熱を燃やすことのできるテーマ、自分のエネルギーを注ぐに値するようなテーマを選ぶことが大切。

- (1) 自分のテーマに関連する分野の学術雑誌に早くから親しんでおくこと。
- (2) 教師の指導を受けること。
- (3) 大学の卒業論文のテーマを過去にさかのぼって研究すること。
- (4) テーマを選んだ根拠をはっきりさせること。

6. 文献の精読

- (1) まず概説書の「注」や「参考文献」にあげられている文献に注目。
- (2) 次に、専門書に当たれ。
- (3) 最後に論文を読め。
- (4) 雑誌も馬鹿にできない。

→最終的には註をつけることを考慮し日頃からデータをPCやカード等で整理しておくこと。

7. 必ず原典に当たること

引用されているものは「孫引き」せず、必ず原典に当たれ。

二次文献から安易に引用するな。

安易に図表などを「孫引き」するな……数値やデータはその著者が解釈して図表化したものであるから、論述と展開が異なれば意味も違ってくる。できるだけ原資料に当たれ。

8. 資料の信頼性

(1) 資料の出所を確かめること。

(2) 論旨に飛躍はないか。

1. 大切なのは、論文全体がわかりやすく書いてあり、構造的に組み立てられていること。
2. 横道にそれで、なにが幹なのか分からなくなっはいけない。
3. 話の筋道が明確でなければならない。
4. 論文は主張や意見の明示されたものでなければならない。
5. 冷静な表現でなくてはならない。理路整然と真面目な文章でなくてはならない。
6. 結論に至る経過が明らかでなくてはならない。
7. 冗漫や過度の修飾語はいらない。

9. 一般的注意

(1) 文字は辞書に当たれ。

(2) 俗語、卑語をつかうな。

(4) 修飾語はなるべく使うな。

(5) みだりに線や傍点をつけるな。

10. 論文の文章でつねに次のことを頭におけ。

(1) 読む人（読者）がいる。

(2) 自己の主張を明確に。一つでも、二つでもどこかに“独創性”の光を放て。

(3) 説得力のあるものを。

(4) できるだけ凝らないで、自然のままの文章を書く。

(5) 難解な言葉は出来るだけ少なくし、いま世の中で使われている言葉を使うようにする。

(6) できるだけ使える言葉の数を多くする。

(7) 文章のテンポは短く、書き方に工夫を凝らす。

(8) 山場はどこか。結論が先か、結論があとか。

(9) 余韻を残す文章を。→この意見には賛否両論あり。注意。

卒業論文審査基準

大阪大学文学部西洋史学専修

I. 基準の骨子

- 1) 卒業論文の目的は、本専修の教育目標に則り、
 - ①批判的思考能力の涵養
 - ②外国語能力の養成に置き、これを充足しているか否かを審査の基準とする。
- 2) 個別指導を充実する。
- 3) 本基準は、卒業論文合格の最低限基準であり、学生はこれを越える論文を作成するよう努力することが望ましい。
とくに大学院進学を考える学生は、この点に十分注意することが必要である。

II. 批判的思考能力に関する基準

これを以下の5点に分けて審査する。

- ①問題発見能力
- ②情報収集能力
- ③情報分析能力
- ④総合力
- ⑤表現能力

①問題発見能力の基準

論文のテーマを明確に定式化できているかどうか。

仮説自体は独創的なものでなくてもよい。

そのテーマがなぜ論文に取りあげる必要があるのかが説明できているか。

これを述べるためには、ある程度は研究史に立ち入らざるをえない。

②情報収集能力の基準

設定したテーマを論じるに必要な文献を調査・収集しているか。

◆史料の使用は絶対条件とはしないが、使用することが望ましい。

外国語文献については、下記のⅢを参照のこと。

③情報分析能力の基準

仮説の論証に向けて脇道に逸れずに、収集された事実を分析しているか。

事実の分析に、独断や知識不足に基づく飛躍や陥穽はないか。

④総合力の基準

論文が全体として、仮説の論証という方向に沿ってまとまっているか。

⑤表現能力の基準

文意が通っているか。全体の論旨が通っているか。

自分の文章と、既存研究文献の文章の区別がついているか。

必要な注が付されているか。

概念を使用する場合、それを十分理解しているか。

論文中の表記に関しては、口頭試問でこれを確認することがある。

Ⅲ. 外国語能力の養成に関する基準

外国語文献を書籍1冊（あるいは、論文5本程度）以上利用しているか。

非英語圏国の歴史をテーマとする場合、当該国語文献の利用は絶対条件としない。

◆ただし、当該国語文献の利用はきわめて望ましい。

外国語文献の利用を確認するため、口頭試問でこれに関する質問をすることがある。

Ⅳ 卒業論文予備発表の日程

1) 3年生12月ごろ

問題設定について発表する（日本語の文献のみで構わない）。

発表約10-15分、指導約15-20分

2) 4年生5月ごろ

事前にレポートを提出し、当日はそれにもとづいて発表する。

発表約20-25分、指導約15-20分

3) 4年生10月ごろ

事前にレポートを提出し、当日はそれにもとづいて発表する。

発表約20-25分、指導約15-20分